

個性・多様性を  
尊重した組織づくり



環境に配慮した  
事業推進

安全・安心な  
交通社会の実現



総物流  
ソリューションによる  
新しい価値の創造



今日をスムーズに、  
明日をスマートに。

SGホールディングスグループ  
CSRコミュニケーションブック2018

地域社会への  
貢献



サステナブル調達  
の推進



責任ある  
経営基盤の構築



アジアを代表する総合物流企業グループへ

# 総合物流企業グループとして、 事業を通じて社会課題の解決を図り、

SGホールディングス株式会社  
代表取締役社長

町田公志



## ■ステークホルダー経営をさらなる高みへ

私たちSGホールディングスグループは従来から、お客さま、従業員、地域社会、株主、取引先と、事業をとりまくステークホルダーの期待に応える経営に取り組んでまいりました。

2017年12月には東京証券取引所 市場第一部へ上場し、より多くのステークホルダーの皆さまから関心を寄せていただけるようになりました。社会の公器たる上場企業として、これまで以上にステークホルダー経営を推進し、誠実で透明性の高い経営の実践に努めてまいります。

## ■CSR重要課題を新たに特定

ステークホルダー経営を推進する指標として、CSR重要課題(以下、重要課題)を新たに検討し、特定しました。重要課題の特定にはSDGs(持続可能な開発目標)を活用し、社会課題の視点からも検討を加えました。「アジアを代表する総合物流企業グループへ」という長期ビジョンを見据えながら、事業を通じて重要課題の解決を図り、持続的な成長の礎を築いてまいります。

### CSR重要課題

- ①安全・安心な交通社会の実現
- ②環境に配慮した事業推進
- ③個性・多様性を尊重した組織づくり
- ④総合物流ソリューションによる新しい価値の創造
- ⑤地域社会への貢献
- ⑥サステナブル調達の推進
- ⑦責任ある経営基盤の構築

7つある重要課題のうち、物流事業の持続的な展開に

# 持続的な成長を目指し続ける

欠くことのできない3項目－安全、環境、人材－が最重要課題です。私たちは、公道を使い保有する約26,000台の車両を用いて物流事業を展開しています。多くの車両を使うことから、交通安全と環境保全に関する社会への影響は大きく、社会的責務は非常に重いと認識しています。また物流事業は、ドライバーをはじめ多くの従業員の力を必要とします。労務管理の改善や多様な働き方の導入を進め、従業員にいきいきと働き続けてもらうことも大変重要な課題です。

他に、総合物流ソリューションによる価値創造、地域社会貢献、サステナブル調達、責任ある経営基盤構築、と持続可能な経営に必要な重要課題を特定しました。また、重要課題の要素を取り入れた「CSR ステートメント (声明)」も策定し、今後、ステークホルダーの皆さまに対し積極的に情報発信を行ってまいります。

## ■持続的な成長に向けて

物流は、生産や流通を支えるインフラとして、社会の発展に欠くことのできない機能です。ネット通販市場の拡大が続く日本、経済成長を続けるアジア。いずれも物流へのニーズは今後ますます高まってくると思われます。

私たちは、国内外に広がるサプライチェーンを支えることで、社会の発展に貢献できる企業グループでありたいと考えます。新たな価値を創造する物流ソリューションで、国際的な社会課題にも真摯に対応していく。そうすることによって、信頼される企業として持続的に成長していけるものと認識しています。

これからもステークホルダーの皆さまから必要とされる存在であり続けるために、高い意識を持ち、グループ一丸となって事業に邁進してまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

SGホールディングス株式会社  
代表取締役会長

栗和田 栄一



# SGホールディングスグループ CSRステートメント

2017年度に新たに特定したSGホールディングスグループの「CSR重要課題」を土台として、当社グループがCSR活動を行う「意義」「考え方」を分かりやすく示した「CSRステートメント(声明)」をまとめています。CSRの方針に迷いが出たときに、立ち戻るべき指標のひとつとして活用してまいります。

## 『今日をスムーズに、明日をスマートに。』

今日、私たちが全力で取り組んでいるのは、  
物流で人びとの暮らしをスムーズにすること。

それは、

「物流というインフラ」を安全に、ゆるぎなく提供すること。

地球環境と共生し、豊かで幸せな暮らしを守ること。

そして、

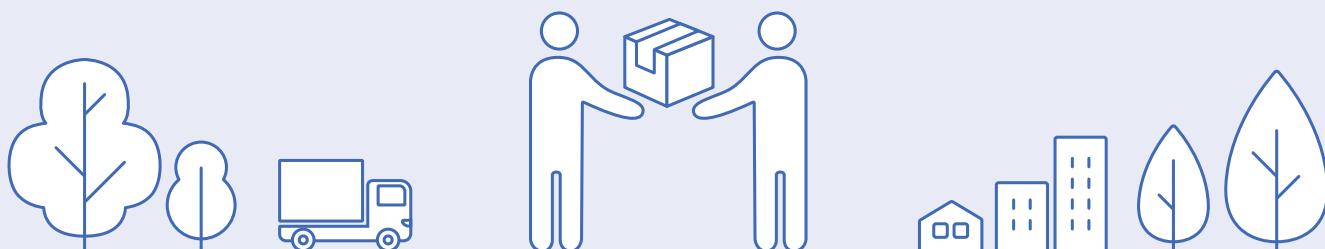
総合物流ソリューションの力で新しい価値を創造し、

今よりもスマートな明日をつくりたい。

人と人がつながり、笑顔で結ばれていく未来のために、

「SGホールディングスグループ」は、

事業を通じて社会に貢献しつづけます。



# CSRコミュニケーションブック

SGホールディングスグループでは、社会からの要請が大きく、当社グループにとっても重要度の高いものを、「SDGs(持続可能な開発目標)」を参考にしながらCSR重要課題として特定しました。本CSRコミュニケーションブックでは、7つの重要課題に沿って代表的な取り組みを紹介しています。

	安全・安心な交通社会の実現	 	P.6
	環境に配慮した事業推進	 	P.8
	個性・多様性を尊重した組織づくり	 	P.10
	総物流ソリューションによる新しい価値の創造	    	P.12
	地域社会への貢献	    	P.14
	サステナブル調達への推進	   	P.16
	責任ある経営基盤の構築	 	P.17

## SDGs(持続可能な開発目標)とは

「Sustainable Development Goals」の略。2015年9月の国連サミットで採択された、持続可能な社会をつくるために世界各国が2016～2030年の15年間の達成を合意した17の目標と169のターゲット。企業にも目標達成に向けた対応が求められている。

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標





# 安全・安心な 交通社会の実現

世界では毎年120万人以上の方が  
交通事故で死亡しています

WHO(世界保健機関)の調査によると、世界では毎年120万人以上の方が交通事故で死亡しており、国連による持続可能な開発目標「SDGs」でも、“2020年までに世界の道路交通事故による死傷者を半減させる”という目標が掲げられています。

SGホールディングスグループは、約26,000台の車両を保有し公道を使って事業を行うグループです。私たちは物流という社会インフラを担う者として、交通事故や渋滞による社会への負の影響を最小化していくことが重要であると考えています。



佐川急便の車両の  
年間走行距離  
約**6億**km

3 すべての人に  
健康と福祉を



11 住み続けられる  
まちづくりを



“ドラコン出場は  
私たちの誇りなんです”



[1]ドライバーコンテストの様子

## 1 ドライバーコンテスト

佐川急便では、運転者の育成および全従業員の安全意識向上を目指した「ドライバーコンテスト」を毎年開催しています。コンテストでは、「学科」「運転」「点検」の3項目で日頃培った運転技術や知識などを競います。出場に際しては全国からの選抜出場選手が合同で研修を行うため、運転技術やマナーの底上げ、プロ意識の向上にもつながっています。このコンテストは、2017年で25回目を迎えました。

2017年度の出場者数



84名

グループ会社含む

## 2 幹線輸送安全パトロール

佐川急便では、協力会社を対象とした「佐川急便幹線輸送安全パトロール」を年1回実施しています。全国主要高速道路のSA/PAにて、幹線輸送協力会社の車両に対し中間呼および車両点検を行います。このパトロールにより、長距離運転をする幹線輸送ドライバーの交通事故と車両故障の未然防止に向けた意識の向上を図っています。

幹線輸送安全パトロールでの  
点検実施台数



1,888台

2017年9月実施

## 3 育成研修制度

佐川急便は、運転教習コースを備えたドライバーの訓練施設を神奈川・愛知・香川県に保有。入社から独り立ちまで一貫したドライバーの教育制度を設けています。

新人ドライバーは入社後、「新入社員基礎研修」、「安全運転基礎研修」を経て、上級安全運転検定員による「添乗指導開始検定」に合格すると、上級SD指導員による添乗指導を受けます。佐川急便は、添乗者による指導がドライバーに対して最も効果的な教育方法だと考えています。ドライバーは、その後、「単独乗務検定」や「集配業務検定」を受け、これに合格して初めてセールスドライバー®として一人で業務に携わることができるようになります。独り立ちした後も、1か月・3か月・6か月のタイミングで上級SD指導員

が、12か月後には上級安全運転検定員がアフターフォローとモニタリングを行います。

上級SD指導員



9,529名

上級安全運転検定員



1,425名

## 4 ドライブレコーダーによる 安全運転検証

佐川急便とSGムービングでは、より効果的な安全運転指導を行うため、ドライブレコーダー（安全運転記録装置）を導入しています。ワールドサプライでは、2018年度より順次ドライブレコーダーを導入する予定です。

ドライブレコーダーは、映像を記録できるもののほか、運転中のエンジンの回転数や急ブレーキなどの危険な挙動をデータ化し記録できるものも採用。運転中の挙動データをその特性ごとに5項目に分けて分析することで、ドライバーの日頃の運転行動や弱点を把握することができ、課題克服するための的確な指導が可能となります。また、ドライブレコーダーが記録した運転中のヒヤリ・ハット体験を他のドライバーと共有することで、ともに安全対策を考える機会にも活かされています。

佐川急便導入台数



15,529台

(61.8%)

SGムービング導入台数



74台

(100%)

## 5 「安全性優良事業所」認定

佐川急便とSGムービング、ワールドサプライは、2018年3月末時点で、それぞれ390か所、11か所、4か所（合計405か所）の事業所において「安全性優良事業所」の認定を取得しています。この認定は、全国貨物自動車運送適正化事業実施機関によって、安全性などへの取り組みが評価された事業所に与えられるものです。



[2] 幹線輸送安全パトロールの模様



[3] 佐川急便豊橋(愛知県)研修センター

運転診断結果		運転診断		
運転診断結果		得点	100	点
平均時速	61.7 km/h	11	79	16
急ブレーキ	1.2回	28	51	9.5
急アクセル	0.5回	89	0	0
急減速	0.5回	89	0	0
急ハンドル	0.5回	89	0	0
急方向転換	0.5回	89	0	0

[4] 運転診断結果表



[5] 「安全性優良事業所」認定マーク

VOICE



### セールスドライバーの プロ意識とは？

2018年ドライバーコンテスト 総合優勝者  
山形営業所  
浅岡幸太さん

家族を守るためにも、絶対に事故は「起こさない」「起こせない」という思いでハンドルを握っています。そのためにも、安全運転基本要領の完全実施はもちろん、自身の運転技術を過信せず、交通弱者や他の車両を思いやる運転を心掛けています。



# 環境に配慮した 事業推進

## 国際社会での環境に対する 2つの重要な決定への責務

2015年、国際社会では環境に対する2つの重要な決定がありました。1つはCOP21(気候変動枠組条約第21回締約国会議)での歴史的な合意「パリ協定」です。この協定では、人間活動によるCO<sub>2</sub>排出量を実質的にゼロにするという目標が設定されました。もう1つは国連サミットで「SDGs」(P.5参照)が採択されたことです。

グループ全体で約26,000台の車両を使用し、約43万t<sup>\*1</sup>(2017年度)のCO<sub>2</sub>を排出している物流事業者として、環境に与える影響の軽減に取り組むことは、大きな責務と考えています。

CO<sub>2</sub>排出量  
430,285t-CO<sub>2</sub><sup>\*1</sup>

※1 国内グループ会社(佐川ヒューモニーを除く)、SG佐川アメロイド、EXPOLANKA FREIGHT(スリランカ)のscope1,2合計



### “自然との共生を目指して”



右/左上:[4]最新の環境配慮型物流施設「SGリアルティ和光」には、カフェをイメージしたラウンジなど従業員が快適に過ごせる工夫が随所に  
左中:[1]電気自動車も活用 左下:[5]土佐山田山林



## 1 環境に配慮した輸配送

SGホールディングスグループでは、配送システム全体でCO<sub>2</sub>排出量の削減に努めています。そのひとつは、天然ガストラック、ハイブリッドトラック、電気自動車、ポスト新長期規制適合車の導入です。これら環境対応車を全車両台数の約4割保有しているほか、2018年6月からは、日本の運送業界初となるいすゞ自動車とシェルジャパンが共同開発した大型LNG(液化天然ガス)トラックの試験走行に協力しています。また、中継センターなどの活用による物流効率化、モーダルシフト(本ページ2参照)やサービスセンター(3参照)の設置により、2017年度のCO<sub>2</sub>総排出量は42万3,455t\*2と、前年度比96.4%になりました。

### 環境対応車保有台数

 **10,301** 台

### 2017年度CO<sub>2</sub>総排出量

 前年度比 **96.4%**  
(423,455t\*2)

\*2 国内グループ会社scope1,2合計  
(佐川ヒューモニーを除く)

## 2 モーダルシフト

モーダルシフトとは、トラックによる貨物輸送を、環境負荷が低い列車や船に切り替えること。佐川急便では2004年より、日本貨物鉄道と共同開発した電車型特急コンテナ列車「スーパーレールカーゴ」を東京―大阪間で上下それぞれの便を定期的に運行し、CO<sub>2</sub>排出削減に大きな効果を発揮しています。

### 東京―大阪間上下合わせ2列車運行による合計積載量

 **10tトラック56** 台分

## 3 サービスセンターの設置

佐川急便では、台車や自転車などで集配を行う「サービスセンター(SC)」を展開しています。全SC合計では車両約1,500台分のCO<sub>2</sub>

や大気汚染物質を排出削減しています。この取り組みと合わせ、削減困難なCO<sub>2</sub>を佐川林業のクレジットを利用してオフセットすることで、業界初となる環境省の「カーボン・ニュートラル認証」を全国6拠点で取得しました。

### 佐川急便サービスセンター

 全国 **324** か所

## 4 環境配慮型の物流施設

SGリアルティでは、グループの配送拠点・流通センター全国99施設で太陽光発電を行っています。2018年2月に竣工したSGリアルティ和光では、最新の自家消費型太陽光発電システムの導入のほか、発電電力を利用した防災用蓄電設備も備え、「DBJ Green Building認証」制度、建築物省エネルギー性能表示制度「BELS」双方で最高ランク「5つ星」の認証を獲得しました。また「BELS」では、物流施設初の「ZEB\*」評価を獲得しています。

\*ZEB ゼロ・エネルギー・ビルディング


### ソーラーパネル枚数(全国99施設総数)

 **137,808** 枚

## 5 森林保全活動

SGホールディングスグループは高知県、徳島県、東京都に8か所、合計約753ヘクタールの森林を保有しています。四国の山林では、森林が持つ多面的機能(CO<sub>2</sub>吸収、土壌保全、水源かん養など)を十分に発揮させるため、地元の森林組合とともに間伐などの保全活動を行い、持続可能な山林経営を目指し活動しています。また、「佐川急便 高尾100年の森」では、市民、教育機関や専門家、NPOなどと協働で、子どもたちを対象にした自然体験学習等を継続的に実施しています。

### SGホールディングスグループが保有する森の広さ\*

 東京ドーム 約 **160** 個分  
\*佐川急便と佐川林業を合わせた計約753ヘクタールとして換算



[1]ハイブリッドトラック



[2]電車型特急コンテナ列車  
「スーパーレールカーゴ」



[3]サービスセンター



[5]里山の保全体験の様子

VOICE



### 先進性のある 物流施設をつくりたい

SGリアルティ  
資産運用部 CM課 課長  
秋元浩司さん

私は新築開発担当なので、コストを重視しつつも、常に先進性のある施設にすることを意識しています。自家消費型太陽光発電システムと、防災用蓄電設備を備えたSGリアルティ和光もそのひとつ。今後は地熱を取り入れた建物にも、挑戦してみたいと思っています。



# 個性・多様性を尊重した 組織づくり

## 働き方改革の推進と グループ全体での人権尊重の推進

我が国においては少子高齢化による労働人口減少によって、働き方改革の推進が社会的な課題となっています。また、経済活動がグローバルに拡大する中、国際社会では「SDGs」(P.5参照)でジェンダー平等といった目標が掲げられるなど、企業に人権尊重への取り組みが求められています。SGホールディングスグループは、世界で約9万人が活躍する企業グループとして、ダイバーシティ&インクルージョンやワークライフマネジメントを取り入れた新たな雇用・労働システムの構築、バリューチェーン全体を通じた人権尊重を推進しています。



“誰もが輝ける  
職場を目指して”

左:[1]スワップボディ車は、トレーラーとは異なりけん引免許が必要ない「大型免許」で運転できることも間口を広げるポイント  
右上:[1]コールセンターなど事務所だけでなく、配送業務でも女性が活躍  
右下:[3]2017年4月には「SGH Kids Garden」を開設

## 1 女性の活躍推進

SGホールディングスグループは、特に女性の活躍推進の取り組みを積極的に行っています。例えば「わくわくウィメンズプロジェクト」では、担当者会議や全体会議を通じて、グループ各社の女性活躍の取り組みを共有しているほか、女性参画のビジネス創出や業務改革に取り組む事業所を表彰する「わくわくアワード」も実施しています。

また、これまで男性が中心とされていた職種に女性が積極的にチャレンジできる環境づくりにも取り組んでいます。佐川急便では、車両のボディと荷台が脱着できるスワップボディ車の導入を推進しています。荷物の積み降ろしと運転を別のスタッフで対応できるため、女性ドライバーの職域拡大が期待されます。SGモーターズでは、ボディ製造工場内への重量物を運ぶための軽量リフターやジブクレーンの導入、溶接作業の社内講習会の開催と実践などにより、女性の職域拡大を推進しています。SGムービングでは、女性のお客さまの声から誕生した女性スタッフによる引越しサービス「レディースムービング」を提供しています。

女性新入社員数(国内グループ会社)

2018年度  
新卒 **224**/627名

## 2 柔軟で多様な働き方

SGホールディングスグループは、従業員自らがワークライフマネジメントを実施し、柔軟で多様な働き方を選択できるよう諸制度の拡充を行っています。こういった多様な働き方改革の推進により新たな人材が獲得しやすくなり、長時間労働の是正にもつながると考えています。

**ナイト便(佐川急便)** ●業務請負契約を結んだ宅配専門ドライバーなどを活用し、在宅率の高い夜の限られた時間帯のみ配達

**週休3日制(佐川急便)** ●兼業や通学、育児・介護などに対応可能な週休3日制セールスドライバー®のトライアル雇用を実施中

**テレワーク** ●在宅作業者のパソコンにデータ

を残さないシステムの導入など、セキュリティ面の環境構築も進め活用を促進中

## 3 SGH Kids Garden

社会問題になっている待機児童の解消や女性活躍推進、仕事と家庭の両立支援を目的に、グループ初となる事業所内保育園を2017年4月に開設しました。認可保育園と同等レベルの教育、安全を実現しており、ランドリーやお昼寝用タオルなどのオプションサービスも充実。グループ内従業員の復職支援はもちろん、従業員の配偶者が社会進出の一助としても貢献しています。

## 4 「地域若者サポートステーション」 在籍者の受け入れ

SGフィルダーでは、「Tokyoビッグベイ事業場」にて、「地域若者サポートステーション」在籍者からの受け入れを実施しています。

地域若者サポートステーションとは、働くことに踏み出したい若者たちとじっくり向き合い、本人やご家族の方々をサポートすることで働く力を引き出し、職場定着するまでを全面的にバックアップする厚生労働省委託の支援機関です。2017年度は計14名の方に職場体験の機会を提供しました。

「地域若者サポートステーション」  
在籍者の受け入れ人数

2017年度 **14**名

## 5 外国人が働きやすい環境の整備

SGモーターズは、日本の自動車整備専門学校で学んだ外国人留学生を整備士として採用しています。2018年度には外国籍整備士の人数は53名と全体の約1割に達しました。キャリアアップにおいても、外国籍整備士と日本人整備士との間に格差はありません。日本文化を教える講座や意見交換を行う研修を開くなど、外国籍整備士が安心して能力を発揮できる環境を整えることにも取り組んでいます。

外国籍整備士の人数

**53**名



[1]「わくわくアワード」表彰式



[3]「SGH Kids Garden」では、保育施設や玩具に佐川林業(P.9参照)が保有する森林の間伐材をふんだんに使用

VOICE



## ダイバーシティ& インクルージョンの意義

SGホールディングス  
人事部 シニアマネジャー  
小林香織さん

技術の進歩は当社グループのビジネスにも大きな影響をもたらしますが、「人」が重要な役割を果たすことは変わりませんし、新たなビジネスモデルの構築には多様な人材が必要不可欠です。まずは「わくわくウィメンズプロジェクト」など、女性が能力を発揮できる環境づくりに取り組んだ結果、女性の各種研修への参加や職域の拡大による活躍の場も増えています。今後は意思決定を担える女性社員を増やすことが必要であると捉えており、本人の育成はもちろん、登用する側の意識改革など各種施策も推進していきます。



# 総合物流ソリューション による新しい価値の創造

どんなものでも、どこへでも  
さらに効率的にお届けする

トラック、鉄道、外航海運、航空、倉庫など、我が国の物流事業全体の市場規模は約25兆円で、このうち、トラック運送事業の市場規模は約15兆円（2014年度）といわれるなど、私たちのビジネスは社会に欠くことができない機能のひとつです。一方、物流事業にはいまだ、環境負荷低減など効率化に取り組む余地が大いにあると考えています。当社グループではトラック運送事業のみならず、全国の輸配送ネットワーク、グループ各社が持つ多様な機能、パートナー企業との連携などを組み合わせて総合物流ソリューションを提供し、新しい価値の創造を目指します。

我が国の物流事業全体の  
市場規模\*



物流事業全体 約**25**兆円

トラック運送事業 約**15**兆円

※出典：日本のトラック輸送  
産業 現状と課題2018  
（公益社団法人全日本  
トラック協会）

7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



8 働きがいも  
経済成長も



9 産業と技術革新の  
基盤をつくろう



11 住み続けられる  
まちづくりを



13 気候変動に  
具体的な対策を



“「物流パートナー」への道”



左：[1]ベトナム市街を走行するトラック 右上：[1]EXPOLANKA FREIGHTのトラック 右中：[1]SG佐川アメロイドの倉庫  
右下：[2]東京スカイツリー®内東京ソラマチ®での配送の様子

## 1 国際一貫物流の拡充

シンガポールの海外事業統括会社SGホールディングス・グローバルを通じ、成長著しいアジアを中心とした海外市場において、高付加価値サービスを提供しています。

特に、繊維産業が急拡大しているベトナムを世界戦略の重要拠点と位置づけ、ベトナム全土に5つの物流倉庫と99か所のハブ・サービスセンターを展開しており、お客さまのベトナムでの生産・販売を物流面から全面サポートする域内ネットワークを構築しています。そのほか、ベトナム国内のショッピングモールに荷物取次窓口を設置した個人宅への配送や、EC向けフルフィルメントセンター(保管・個人宅への配送など)を展開するなど、3PL(企業物流の一括請負)とラストワンマイルデリバリーを連携させたソリューション提供も行っています。2014年には、スリランカの物流企業であるエクスポランカ社の経営権を獲得し、本社のあるスリランカはもちろんのこと、隣国インド、バングラデシュでの物流展開、中東、アフリカなどの新興市場にも物流ネットワークを有し、アジア域内・アジア欧米間を結ぶ広域物流における一貫輸送サービスを一層拡充させています。

また、アジア各国・地域に生産拠点を持つ日本の事業者を対象に「スマート・インポート®」サービスも提供しています。これは現地の物流拠点で製品を荷受けし、検針・検品・アソート・国内配送伝票の貼付といった物流加工を行った後、日本国内の納品先まで国際輸送するサービスです。2016年10月より、日立物流グループと協働で、中国に生産拠点を持つ衣料品販売会社へのサービス提供をスタートし、現在はベトナム拠点からのサービスも始まっています。

## 2 館内物流

佐川急便とワールドサプライでは、物流の効率化を推進するために、大規模な複合商業施設などに出入りする人・物・車・情報と施設保全を一括管理する「館内物流システム」を提供しています。東京スカイツリー® や東京ミッドタウン、GINZA SIXをはじめ、両社合計で90件を受託しています。館内物流システ

ムの導入により、納品車両が集約されて施設周辺の交通渋滞が緩和し、環境負荷低減につながります。その効果が認められ「東京における地区物流効率化認定制度」の認定(2014)や、「グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰 国土交通大臣賞」を受賞(2014)しました。

### 館内物流システム受託件数



90件

## 3 GOAL® (GO Advanced Logistics)

「GOAL」とは、潜在的な顧客課題を見極めて物流の最適解を提供する専門家集団です。商品ライフサイクルの短縮化やサービス競争の激化、ビジネスのグローバル化といった市場環境の変化に対応するため、企業間物流に強みを持つ佐川急便の全国ネットワークと、佐川グローバルロジスティクスの流通加工をはじめとする多様なリソース、グループ企業が持つ国際・IT・決済機能を融合したロジスティクスソリューションを提供しています。「GOAL」は1チーム4~6人のチーム制で現在約200人が所属し、全国エリア別にチームを組織しています。

### GOALチーム所属人数



約 200人

## 4 多様な輸送手段を実現する「TMS」

佐川急便では、宅配便に限らずあらゆる「もの」を運ぶ新しい物流サービスとして「TMS(トランスポートエーション・マネジメントシステム)」を提供しています。SGホールディングスグループが保有するノウハウや幹線輸送協力会社などの輸送ネットワークを活かして宅配便以外の輸送モードをプロデュースすることで、工場や大規模オフィスを丸ごと移転させるためのトータルマネジメントや、航空機・鉄道車両といった重量物、美術品、動物などの特殊輸送、ミルクラン(巡回集荷)などを実現します。



[1]ベトナムでの検針の様子



[2]GINZA SIXでの配送の様子

先進的ロジスティクス  
プロジェクトチーム  
「ゴール」。

GOAL®  
(GO Advanced Logistics)

[3]「GOAL」は先進的ロジスティクスプロジェクトチーム

VOICE



### SG佐川ベトナムの 一員となって変化は?

SG佐川ベトナム/佐川急便ベトナム  
営業部 ロジスティクス担当部長  
山崎晃仁さん

仕事の範囲・責任が広がり、目の前に高い壁を感じることもありますが、挑戦することに「やりがい」を感じながら仕事をしています。ベトナム(海外)を利用したビジネスを成功させるお手伝いができること、それを通じ、私とSGホールディングスグループ全体が成長できることに意義を感じます。



# 地域社会への貢献

## 国内外のさまざまな地域で 事業を展開する企業の責任として

国内では、少子高齢化対応と地方創生は地域社会の喫緊の課題となっています。「SDGs」(P.5参照)では「環境・経済・社会」の相互連関が強く認識され、その諸課題を統合的に解決することの重要性が示されています。SGホールディングスグループは、国内外のさまざまな地域で事業を展開している企業の責任として、「環境・経済・社会」の観点から統合的に地域社会の課題解決に取り組んでいます。また国内では特に、災害時の復興支援や自治体との「地域活性化包括連携協定」の締結など、地域社会の持続可能な発展に貢献することを目指して活動を展開しています。



地域活性化包括連携協定の  
締結実績

3件 → 26件

2016年  
3月末時点

2018年  
7月末時点



“地域の「環境・経済・社会」課題を統合的に解決する”



上/左下:[5]SGホールディングス キッズスポーツキャンプ 下中:[2]さいたま市での災害時支援物資輸送訓練の様子  
右下:[3]大阪ステーションシティ(JR大阪駅)の訪日外国人向け宅配カウンター

## 1 地域活性化包括連携協定

近年、地域が抱える課題は多様化しており、暮らしやすく魅力あるまちづくりに向けて多くの自治体が積極的な取り組みを進めています。佐川急便は、全国で事業を営む企業として、自治体と「地域活性化包括連携協定」を締結し、地域のさまざまな課題解決に積極的に取り組んでいます。2018年7月末時点で18道府県8市との締結に至りました。協定の内容は、「手ぶら観光」の推進による観光振興への貢献、地産品の流通や販売促進に協力する体制の構築、災害時の支援物資の輸送など、地域活性化の取り組みから災害支援まで多岐にわたります。また、「安心で住みよいまちづくり」を実現するため、子ども・青少年の育成、高齢者・障がい者支援、環境保全など、さまざまな面から社会課題の解決につながる取り組みを展開しています。

## 2 地域防災への協力

佐川急便は、地域社会への貢献の一環として、地域防災への協力を行っています。2018年1月には、国土交通省とさいたま市が共催した災害時支援物資輸送訓練に協力しました。佐川急便北関東支店さいたま営業所を「市地域内輸送拠点」と想定し、埼玉県の大塚物資輸送拠点から避難所までの一貫したトラック輸送における配送オペレーションなどを実施しました。

## 3 「手ぶら観光」サービス

各自治体と締結している地域活性化包括連携協定の一環として、「手ぶら観光」の推進があります。佐川急便では、観光客に「手ぶら観光」を楽しんでいただけるよう、観光客の手荷物をお預かりしたり、ご希望の場所までお届けするサービスを提供しています。この取り組みは、首都圏や観光地での観光促進や地域活性化に貢献しています。

国土交通省認定観光カウンター



全国 **11** か所

## 4 貨客混載を推進

佐川急便は、貨物と旅客の輸送や運行を一緒に行う貨客混載を推進しています。人口減、少子高齢化などに伴う旅客需要低迷により、特に過疎化が進む地方では、交通インフラの継続維持や労働力の確保が困難となる社会的課題が顕在化しています。そこで、異なる輸送モードが手を取り合うことによって互いの課題を解決するモデルとして、輸送余力を活用した貨客混載を構築、スタートさせました。鉄道、バス、タクシーなどの輸送余力で貨物を輸送し、トラックによる輸送を削減することで、CO<sub>2</sub>排出量削減などの環境対策だけでなく、地域の生活基盤となるバス、鉄道など交通インフラの継続的な維持にも貢献することができます。

## 5 SGホールディングス キッズスポーツキャンプ

SGホールディングスは、2016年から「SGホールディングス キッズスポーツキャンプ」に協賛しています(保有するスポーツ施設・守山パークにて開催)。2017年は有森裕子さん(マラソン)、宇津木妙子さん(ソフトボール)らトップアスリートや、プロダンサーのケント・モリさんといった一流の講師陣を迎え、57名の小学生が参加しました。

SGホールディングス  
キッズスポーツキャンプ  
2017参加者数



小学生 **57** 名

## 6 エクスポランカ社(スリランカ)の地域貢献活動

エクスポランカ社は、2016年度に準備した約100万ルピーのリボルビング基金をもとに、起業を支援するマイクロファイナンス(小規模金融)を行いました。この制度によって、約250名の努力が実り、起業家としてのスタートを切ることができました。

マイクロファイナンスで支援した起業家数



約 **250** 名



[3] 東京スカイツリータウン® サービスセンター



[4] 2017年4月18日より北越急行と貨客混載を実施



[5] 指導を受ける子どもたち



[6] エクスポランカ社ではマイクロファイナンスでスタートアップを支援

VOICE



### 物流が地方創生に果たす役割は？

佐川急便 取締役  
総務・CSR推進担当兼CSR推進部長  
内田浩幸さん

人口減少や少子高齢化、労働力不足、地域経済の低迷など、社会課題が多様化・深刻化する中、当社グループでは事業活動を通じ、共通課題の解決や地方創生に向けて、地域との連携や協働活動に積極的に取り組んでいます。これは持続可能な社会づくりに貢献するとともに、企業価値の向上や競争力強化にもつながるものと考えています。



# サステナブル調達 の 推進

## サプライチェーン全体で CSR活動を推進していくために

人権、環境への配慮など、国内外のサプライチェーン全体での持続可能な事業活動への取り組みが求められています。「SDGs」(P.5参照)においても、グローバルなパートナーシップの活性化が求められています。SGホールディングスグループは、約16,000社のビジネスパートナー(調達先)に支えられています。そのサプライチェーン全体に当社グループのCSRに対する考えや調達への企業姿勢を理解していただくため、SGホールディングスグループ「取引先CSRガイドライン」を制定し、共有しています。



## ■「取引先CSRガイドライン」

### 1. 法令遵守

国内外の法令を遵守し、企業倫理に基づいた公正、公平な事業活動を行います。

### 2. 安全・安心の維持、向上

安全・安心は、私たちの最優先課題です。お取引先とともに安全の維持、向上に努めます。

### 3. 人権・労働環境への配慮

基本的人権を尊重し、安全で衛生的な労働環境を確保します。また、当該地域の法令を遵守します。

### 4. 公正な取引

誠実な姿勢でお取引先に接し、自由で公正な競争の機会を提供します。適切な信頼関係を築くことでお取引先との共存共栄を目指します。

### 5. 地球環境への配慮

地球温暖化や大気汚染などの防止に努め、地球環境に配慮した事業活動を推進します。

### 6. 情報セキュリティの保持

事業活動に関わる機密情報および個人情報に厳重に管理し、盗用、漏えいおよび改ざんなどを防止します。

### 7. 地域社会との共生

国内外の地域社会の発展に奉仕し、お取引先とともに社会との共生を目指します。





# 責任ある経営基盤の構築



## 社会インフラを担う 総合物流企業グループとして

SGホールディングスグループは、社会インフラを担う総合物流企業として、持続可能な社会の発展に貢献するためには責任ある経営基盤の構築が不可欠であると考えています。そこで、企業理念、行動憲章、倫理・行動規範を基本方針とし、コーポレート・ガバナンス体制の整備、コンプライアンスの徹底、リスクマネジメントの強化に取り組んでいます。コンプライアンスについては、内部監査部によるチェックとともに、内部通報窓口としてのコンプライアンス・ホットラインも運用しており、2017年度からは外部窓口も新設しています。

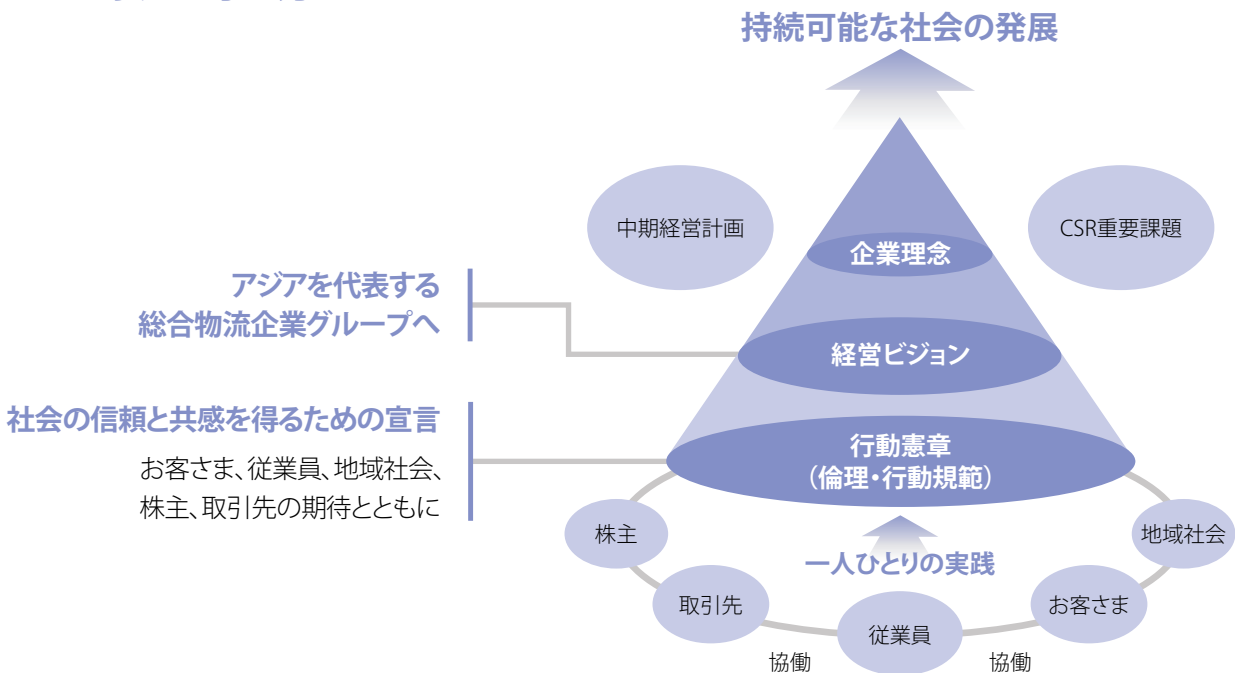
SGホールディングスグループ 企業理念

### 「信頼、創造、挑戦」

SGホールディングスグループは

- 一. お客さまと社会の信頼に応え共に成長します
- 一. 新しい価値を創造し社会の発展に貢献します
- 一. 常に挑戦を続けあらゆる可能性を追求します

## SGホールディングスグループのCSRに対する考え方



# 外郭団体の活動

SGホールディングスグループは、  
公益財団法人SGH財団および公益財団法人佐川美術館の2つの外郭団体を通じて  
社会貢献活動や次世代育成に取り組んでいます。

## 公益財団法人SGH財団

経済・産業、教育・文化、医療・福祉などの振興・発展を図るための研究および事業への助成などを行っています。  
これは、国際的で活力ある社会の創造に向け多面的かつ幅広く社会活動に寄与することを目的とした活動です。

### 留学生奨学支援

東南アジア諸国からの私費留学生に対して、奨学支援を行っています。本事業は1986年の開始以来、510名を採用、奨学金総額は11億5,400万円に達しています。奨学金支給とともに、文集などの発刊や授与式・交流会、同窓会の開催を通じて、日本での留学生活が実り豊かになるよう努めています。2017年度は、全国83大学97名の応募から、16名を第32期奨学生として採用しました。



理事長の栗和田榮一と奨学生の記念撮影

### がん研究振興

がんに関する基礎研究および応用治療研究に対する助成・褒賞やがんに関する講演会・市民公開講座の開催、研究成果報告集の刊行などを行っています。2017年度は、全国の研究機関より申請のあった195件の中から15件の助成を行いました。また、がんの研究ならびに看護の発展に顕著な功績を挙げ、かつ今後の発展が期待される方々に、SGH特別賞・SGH看護特別賞を贈呈しました。

#### 2017年度の助成実績

第29回 SGHがん研究助成	15件(1,500万円)
第15回 SGH特別賞	2件(1,000万円)
第15回 SGH看護特別賞	2件 (200万円)

### 国際経済協力

中華人民共和国および東南アジアの開発途上国や新興国からの研修生の受け入れや物流に関する高度教育機関への専門家派遣を通じて、物流人材の育成を行っています。2017年度は、国土交通省と協働し、ベトナムのホーチミン交通大学にて120名を対象に物流に関する集中講義を実施しました。また、中華人民共和国で物流を専攻する大学生10名を日本に招聘し、物流に関する集中講義を開講しました。



## 公益財団法人佐川美術館

1998年3月、滋賀県守山市に開館した「佐川美術館」には、2017年度は172,342名の皆さまが来館されました。平山郁夫氏、佐藤忠良氏、樂吉左衛門氏の常設企画展示のほか、さまざまな企画展の開催や「さがわきっずみゅーじあむ」、ワークショップなどのイベントを通じて、教育普及活動を推進しています。

また、2017年5月には、守山市と「連携協力に関する協定」も締結、守山市公立小学校の児童を対象とした芸術鑑賞教室の実施や、市民向けの美術講座などを行っています。



さがわきっずみゅーじあむ魔法の美術館III(2017)

# SGホールディングスグループについて

SGホールディングス株式会社は、SGホールディングスグループの純粋持株会社であり、グループ全体の「経営戦略策定・管理機能」を有しています。各事業会社は「業務執行機能」に特化しています。当社は、2017年12月13日、東京証券取引所市場第一部に上場しました。

**商号** SGホールディングス株式会社 (SG Holdings Co., Ltd.)

**設立年月** 2006年3月

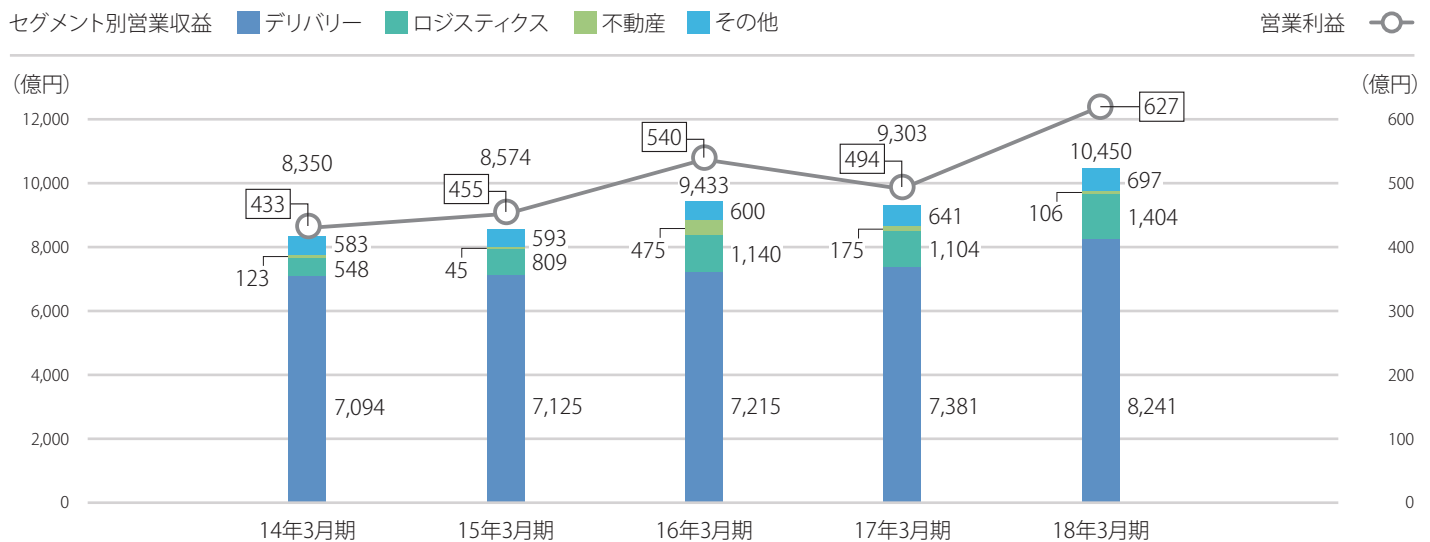
**本社所在地** 京都市南区上鳥羽角田町68番地

**資本金** 11,882百万円

**従業員数** 90,708名(連結/2018年3月期)

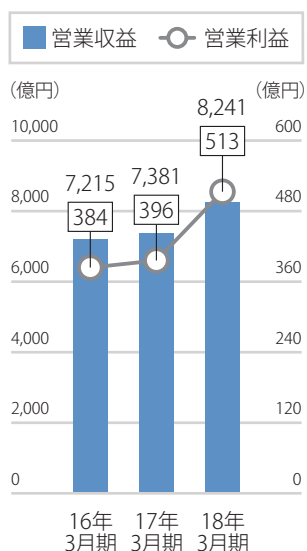
**事業内容** グループ経営戦略策定・管理並びにそれらに附帯する業務

## 連結業績

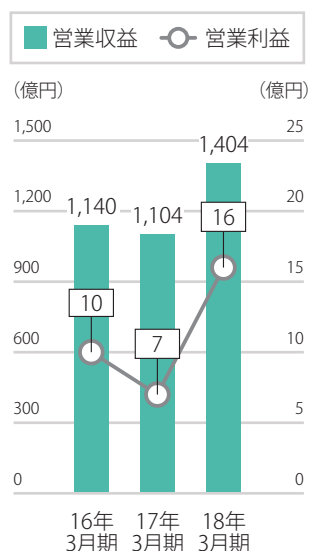


※2018年3月期より決算日を3月20日から3月31日に変更しています。また、この影響により、営業収益489億円、営業利益30億円の増加となっております。

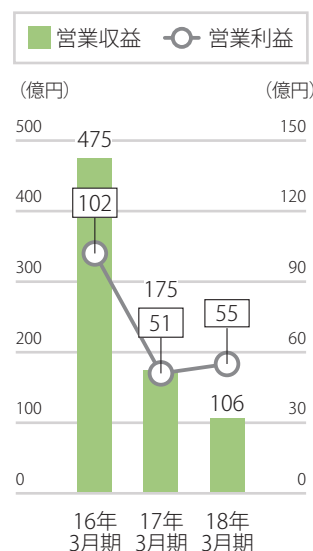
### デリバリー事業



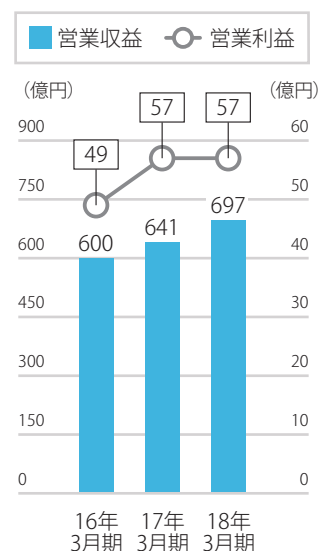
### ロジスティクス事業



### 不動産事業



### その他の事業



# 事業概要・主な国内事業会社

当社グループは、純粋持株会社の当社と、連結子会社101社、持分法適用関連会社8社で構成されています。from BIに注力した事業展開を行い、法人顧客のさまざまなニーズに対応可能な配送網を構築しています。グループ各社の有するリソースを活用し、顧客の物流課題解決に向けた提案活動を実施しています。こうした取り組みを今後も強化・推進し、選ばれ続ける総合物流企業グループを目指します。

## デリバリー事業

日本全国に広がる配送網を持ち、宅配便を中心とした各種輸送サービスを提供しています。



### SAGAWA

佐川急便

宅配便を中心に幅広いデリバリーサービスを提供しています。



### Sg humony

佐川ヒューモニー

電報類似サービス事業を展開しています。



### Sg moving

SGムービング

大型家具・家電の設置事業や引越し事業を中心としたサービスを提供しています。



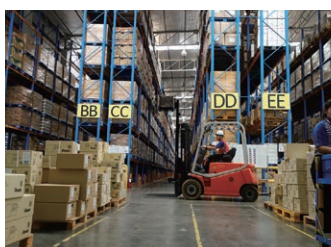
### WORLD SUPPLY

ワールドサプライ

百貨店などへの納品代行事業、3PL事業、食品共同配送などを展開しています。

## ロジスティクス事業

オーダーメイドの倉庫運営や国際輸送、海外現地物流の提供により、国内外一貫でお客さまのサプライチェーン最適化を行っています。



### Sg logistics

佐川グローバルロジスティクス  
佐川ロジスティクスパートナーズ

3PL事業、物流加工事業などを通じて、サプライチェーンの最適化を実現しています。



### SGH GLOBAL

SGHグローバル・ジャパン

国際物流から、物流倉庫業務、国内輸送まで国際一貫輸送を提供しています。

## 不動産事業

グループの事業インフラである物流施設などを中心に不動産の開発・活用・管理を行っています。



### Sg realty Sg assetmax

SGリアルティ SGアセットマックス

物流施設などの開発・活用・管理を行っています。

## その他の事業

車両整備、ITシステム、ファイナンス、人材派遣など、  
中核事業をサポートする分野でも、グループ各社が多彩な事業を展開しています。



### Sg advance

#### 佐川アドバンス

保険事業、燃料販売事業、商品開発事業などを行う総合サービス企業です。



### Sg motors

#### SGモータース

車両整備やボディ製造、新車・中古車販売などの事業を展開しています。



### Sg systems

#### SGシステム

国内最大級の貨物追跡システムや出荷支援システムの開発・運用などの事業を展開しています。



### Sg financial

#### 佐川フィナンシャル

「e-コレクト<sup>®</sup>」サービスなどファイナンス事業を展開しています。



### Sg fielder

#### SGフィルダー

庫内業務などの人材アウトソーシングサービスを提供しています。



### Sg expert

#### SGエキスパート

グループの総務や人事、経理などの管理業務を集約しています。



#### ヌーヴェルゴルフ倶楽部

千葉県大網白里市で、自然との調和を大切にゴルフ場を運営しています。



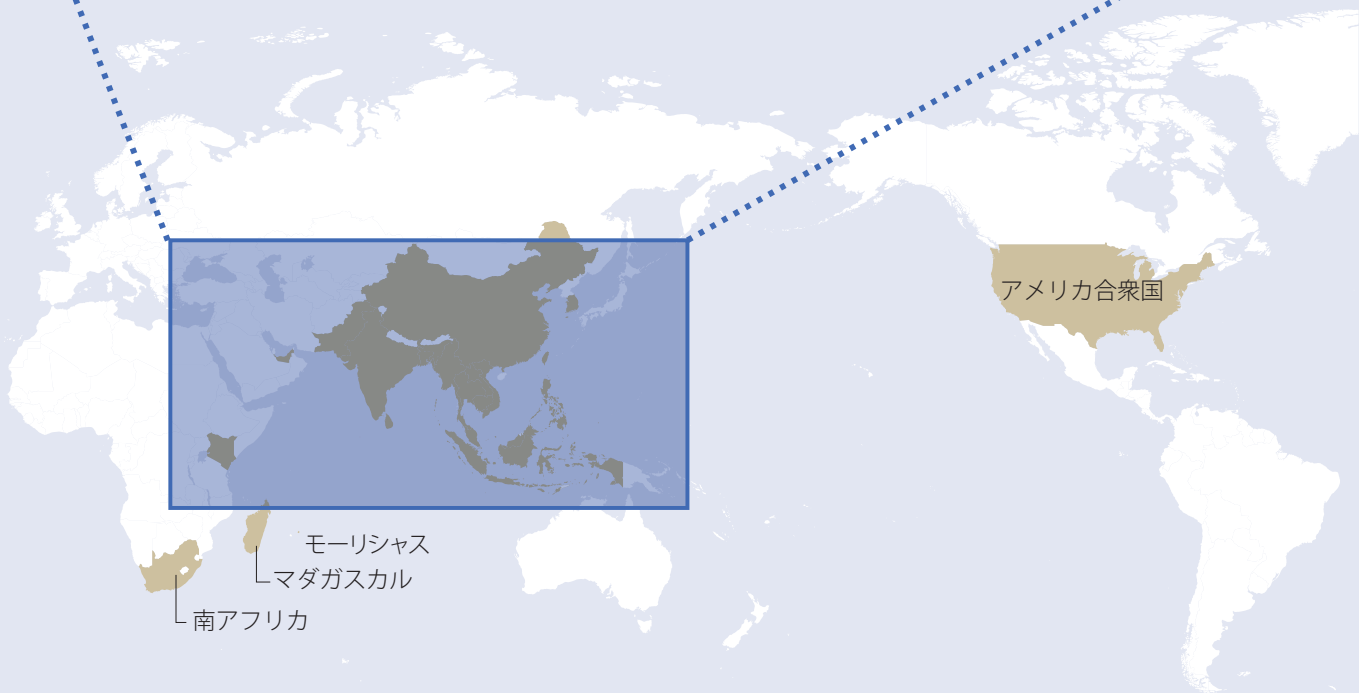
### Sg forestry

#### 佐川林業

高知県内・徳島県内に所有する計7か所の森林の育成・保全・管理を行っています。

# 海外法人

SGホールディングスグループでは、日本のほかアジアを中心に24の国と地域に展開し、関係会社90社(内物流関連会社61社)で構成されたグローバルネットワークを駆使して、一貫した総物流サービスを提供しています。



■ は拠点を保有する国・地域

## ■ 主な海外拠点

### SG HOLDINGS GLOBAL PTE.LTD.

海外事業統括会社(シンガポール)  
当社グループの海外事業における企画・戦略策定・資金調達・ITサポート・その他管理業務など

### ● East Asia [東アジア]

お客さまに代わり輸出入貨物の輸送手配および税関手続きなどを行うフレイト・フォワーディング事業をはじめ、中国(深セン)・香港に自社倉庫を構え、高品質なロジスティクス事業(3PL/CFS)を展開。また日本の佐川急便と連携した国際宅配便サービスや、越境通販貨物の戸口までの一貫した輸送手配などを展開しています。

#### ・拠点ネットワーク

中国 (華北/上海)	<b>上海保利佐川物流有限公司</b> トータルロジスティクス <b>EXPO FREIGHT (SHANGHAI) LTD</b> フレイト・フォワーディング
中国 (華南/深セン)	<b>保利佐川物流有限公司</b> トータルロジスティクス
香港	<b>佐川急便(香港)有限公司</b> トータルロジスティクス <b>EXPO FREIGHT (HONG KONG) LTD</b> フレイト・フォワーディング
台湾	<b>台湾佐川急便国際股份有限公司</b> トータルロジスティクス
韓国	<b>SAGAWA LOGISTICS KOREA CO.,LTD.</b> トータルロジスティクス

### ● Southeast Asia [東南アジア]

東南アジア主要国に拠点を構え、自社倉庫(フィリピン・タイ・ベトナム・シンガポール)を基点とした、川上から川下までの総合物流サービスを展開しています。お客さまのニーズに合わせた物流計画策定～3PL/流通加工サービス(ピックアップ・値付・検品検針・アソート作業など)まで、高品質な物流サービスを提供しています。



SG 佐川ベトナム・ディストリビューション・センター  
(ニョンチャック川工業団地)

#### ・拠点ネットワーク

フィリピン	<b>SAGAWA EXPRESS PHILIPPINES,INC.</b> トータルロジスティクス <b>SAGAWA GLOBAL LOGISTICS (PHILIPPINES) INC.</b> PEZA内保税倉庫 <b>EXPOLANKA FREIGHT LIMITED</b> フレイト・フォワーディング
-------	--

タイ	<b>SG SAGAWA (THAILAND)CO.,LTD.</b> トータルロジスティクス
----	--

ベトナム	<b>SAGAWA EXPRESS VIETNAM CO.,LTD.</b> 国内トラッキング
------	--

	<b>SG SAGAWA VIETNAM CO.,LTD.</b> トータルロジスティクス
--	--

	<b>SG SAGAWA EXPRESS VIETNAM., LLC.</b> 国内宅配サービス
--	---

	<b>EXPOLANKA FREIGHT (VIETNAM) LTD</b> フレイト・フォワーディング
--	---

マレーシア	<b>EFL MALAYSIA SDN.BHD</b> フレイト・フォワーディング
-------	--

シンガポール	<b>SG SAGAWA AMERIOD PTE.LTD.</b> トータルロジスティクス
--------	--

	<b>AMGAS ASIA PTE.LTD.</b> 原油販売
--	------------------------------------

インドネシア	<b>PT EXPO FREIGHT INDONESIA</b> フレイト・フォワーディング
--------	---

### ● North America [北米]

米国発越境通販貨物の取り扱いや、米国発着のフレイト・フォワーディングなど、米国内に5拠点(ロサンゼルス・ニューヨーク他)を構え、当社のグローバルネットワークを駆使した展開をしています。

#### ・拠点ネットワーク

ロサンゼルス	<b>SG SAGAWA USA,INC.</b> トータルロジスティクス
--------	--

	<b>EXPOLANKA USA LLC</b> フレイト・フォワーディング
--	---

### ● South/West Asia&Others[南アジア/西アジア他]

南アジアの中核会社EXPOLANKA HOLDINGS PLC(スリランカ本社)を中心に、インド国内に20拠点を有し、フレイト・フォワーディング事業を展開しています。バングラデシュ・中東・アフリカなどにも拠点ネットワークを構築し、北米・欧州向けの製品輸送に強みを持っています。

#### ・拠点ネットワーク

スリランカ本社	<b>EXPOLANKA HOLDINGS PLC</b> 
---------	---

スリランカ	<b>EXPOLANKA FREIGHT (PRIVATE) LIMITED</b> 
-------	--

インド	<b>EXPO FREIGHT INDIA (PRIVATE) LIMITED</b>
-----	---

バングラデシュ	<b>EXPOLANKA BANGLADESH LIMITED</b>
---------	-------------------------------------

ドバイ	<b>EXPOLANKA FREIGHT FZCO</b>
-----	-------------------------------

パキスタン	<b>UNION CARGO (PRIVATE) LIMITED</b>
-------	--------------------------------------

南アフリカ	<b>EXPOLANKA FREIGHT (PROPRIETARY) LIMITED</b>
-------	--

ケニア	<b>EXPOLANKA FREIGHT LIMITED</b>
-----	----------------------------------

モーリシャス	<b>EXPOLANKA FREIGHT LIMITED</b>
--------	----------------------------------

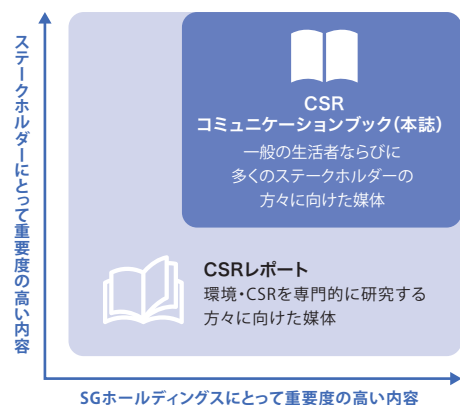
マダガスカル	<b>EXPOLANKA MADAGASCAR SA</b>
--------	--------------------------------

## SGホールディングス株式会社

〒601-8104  
京都市南区上鳥羽角田町68番地  
TEL 075-671-8600  
<http://www.sg-hldgs.co.jp/>

タイトル — CSRコミュニケーションブック2018  
発行日 — 2018年12月

SGホールディングスグループのCSR活動に関するレポートは、CSRレポート(2018年11月発行)と、CSRコミュニケーションブック(本誌)に分けて発行・掲載しています。CSRレポートは環境・CSRを専門的に研究する方々に向けた媒体として、数値データを含めた当社グループのCSR活動に関するすべての情報を掲載。CSRコミュニケーションブックは、一般の生活者ならびに多くのステークホルダーの方々に向けて、特にお伝えしたい取り組みを抜粋して掲載しています。そのほか、投資家・金融機関などへの情報開示を目的としたアニュアルレポートも発行しています。



### 報告対象期間

2017年3月21日～2018年3月31日  
※報告期間が異なる場合は、都度明記しています。

### Webサイトによるコミュニケーション

SGホールディングス コーポレートサイト

<http://www.sg-hldgs.co.jp/>

株主・投資家情報

<http://www.sg-hldgs.co.jp/finance/>